

古川祭の起し太鼓・屋台行事を含む『山・鉦・屋台行事』のユネスコ無形文化遺産登録が決定

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の政府間委員会は11月30日(日本時間12月1日未明)、エチオピアの首都アディスアババで開いた会合で古川祭の起し太鼓・屋台行事など18府県33件の祭りで構成する「山・鉦・屋台行事」を無形文化遺産に登録することが決定されました。能楽や歌舞伎、和食などに続く登録で日本の無形文化遺産は21件になりました。

■山・鉦・屋台行事

「古川祭の起し太鼓・屋台行事」や「高山祭の屋台行事」など18府県の計33団体が国の重要無形民俗文化財に指定されています。政府は平成26年3月に、この33団体をグループ化し、「山・鉦・屋台行事」として「無形文化遺産」に登録申請しました。今回の登録により古川祭は、先人より引き継がれてきた伝統文化としてだけでなく、地域コミュニティを支える根幹として、また多世代の交流から多くを学ぶことができるなど大きな意義をもっています。「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録され古川祭の誇る祭礼文化が全国・世界へ発信されることが期待されます。



■ユネスコ無形文化遺産

ユネスコが保護すべき「遺産」として登録したものには幾つかの区分けがあります。

例えば「世界遺産」があります。これは「世界遺産条約」に則って普遍的な価値ありと認定された各地の建造物や遺跡などです。日本の法隆寺のような建物は「文化遺産」です。

これに対して、物としての「形」を取らない芸能(民族音楽・舞踊・劇等)や伝承、社会的慣習、儀礼、伝統工芸、文化等のうち、普遍的価値が認められる遺産が「無形文化遺産」という扱いになります。

■登録決定報告会 12月1日(木) まつり会館

ユネスコ登録を受けて、飛騨古川まつり会館でユネスコ登録決定報告会が開催され、古川祭保存会や気多若宮神社の役員など約40人がくす玉割りや万歳三唱で喜びを分かち合いました。



■登録決定記念イベント 12月3日(土) まつり広場・古川町

飛騨市ユネスコ無形文化遺産登録記念事業実行委員会は、まつり広場で記念イベントを開催しました。

イベントでは、古川祭保存会による神事が執り行われたほか、同実行委員会による記念式典が開催されました。獅子舞や鏡割り、だんごまきなどで、参加した市民ら約800人とともに喜びをわかちあいました。

式典後には、提灯行列が行われ、祭関係者や市民など約400人が各台組の旗や提灯を手に、町内を練り歩きました。



防 緊急時の防災救護の充実へ 災ヘリポートが神岡に完成

12月13日（火） 神岡町

神岡町の旧神岡東小学校グラウンドの南側に神岡町消防防災ヘリポートが完成し、昨年12月1日から運用を開始しました。

このヘリポートは、平成28年度岐阜県南海トラフ等地震対策推進事業補助金を受けて整備を行いました。面積は約1,300平方メートルで、除雪管理し通年使用可能な専用ヘリポートとして飛騨市では2箇所目となります。

平成27年8月からは、富山県のドクターヘリが飛騨地域でも運航するようになり、ドクターヘリ等の地域医療だけでなく、災害時のヘリコプター活動拠点として有効活用を見込んでいます。



現地を視察し挨拶する都竹市長

飛 卒園記念にかるたを制作 騨弁かるたで地元へ愛着を

12月8日（木） 増島保育園

増島保育園の年長園児40人が、方言をテーマにした「飛騨弁かるた」を作りました。

子どものうちから飛騨の良さを知ってもらい、郷土の言葉に親んでもらおうと、町内のグループ「しゃべりばち☆おとめの会」と同園が3年前から企画しています。

読み札は「きやいた（消した）たきび」「のくとめた（暖めた）牛乳」など方言がふんだんに盛り込まれています。

園児は見本を見ながら、紙にひらがなを書いたり、下絵に色を塗るなどして仕上げました。作成したかるたは卒園記念として3月に園児にプレゼントされます。



メンバーと交流しながらかるたづくりを行う園児

≡ ものづくりで地域貢献 ≡ 畳ベンチを2か所に寄贈

12月15日（木） 和光園、21日（水） たんぼぼ苑

飛騨市の建築・まちなみを残す会は先に行われたイベント「もくチャレ！」で制作した畳ベンチを市内の高齢者施設に寄贈しました。

吉城高校の生徒が作成したベンチ2脚は古川町の和光園に寄贈されました。生徒は「みんなで一生懸命作りました。皆さんで大切に使って欲しいです」と話していました。

飛騨神岡高校の生徒が作成したベンチ1脚は神岡町のたんぼぼ苑に寄贈されました。生徒は「全員で思いを込めて作りました。少しずつ完成に近づくのが嬉しかったです」と話していました。



生徒らが制作したベンチに座る利用者

木 飛騨市の木育を広める会と共催 に学び木で遊ぶ

12月11日（日） 総合会館

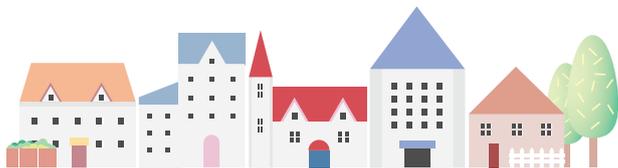
飛騨市の建築・まちなみを残す会は木材とふれあうイベント「もくチャレ！～木に学び木で遊ぶ1日～」を行いました。

会場では、かんなくずでいっぱいにしたプールや丸太切り、コースター作り、木製10センチ巨大シーソーなどたくさんのブースが設けられ、訪れた来場者は様々なブースを体験し、木について学びました。

また、吉城高校と飛騨神岡高校の生徒が飛騨の匠2名の指導の下、ヒノキで座面に畳を使ったベンチ作りに挑戦しました。



丸太切り体験をする来場者



河 飛騨市地域おこし協力隊委嘱状交付式 合町に更なる活力を

12月20日（火） 市長室

飛騨市地域おこし協力隊として地域振興に取り組む戸村元哉さんへ市長から委嘱状が交付されました。市内で活動する協力隊員は戸村さんで4人目となります。

愛知県出身の戸村さんは河合町をメインに活動します。「河合町にある自然、人、伝統的な物などを情報発信していきたい。そして、河合町や飛騨市に人を呼び込みたい」と意気込みを話しました。

都竹市長は「イベントに参加したり、たくさん話をしたりと、どんどん地域に溶け込んで欲しい。また4人いる協力隊同士でも交流を深めて、活動に活かして欲しい」と話していました。



委嘱状を手にする戸村さん（左）と都竹市長

お 飛騨特別支援学校で餅つき交流会 正月の準備できたよ

12月16日（金） 飛騨吉城特別支援学校

飛騨吉城特別支援学校の児童生徒 27 人は、殿町青龍会と青龍台組青年部 22 人と餅つきや鏡餅、花餅づくりで交流をしました。

この交流会は、地域の一員として子どもたちを応援しようと企画され、今年で4年目。生徒たちは、きねと臼を使って「よしよ、よしよ」の掛け声に合わせて嬉しそうに餅をついたり、鏡餅を作ったりしました。

中屋青龍会会長は「かっこいい鏡餅を作って家に飾り、良い正月を迎えてください」とあいさつし、船渡校長は「子どもたちを暖かく見てくれ、地域でも支えてもらえることは、とてもありがたいです」と話していました。



青龍会会員らとともに餅をつく児童

新 飛騨市ふるかわ元旦マラソン2017 春の古川を駆け抜ける

1月1日（日） ハートピア古川

第46回飛騨市ふるかわ元旦マラソン2017が開かれ、市民や帰省者ら992人のランナーが参加し、ハートピア古川を起点に思い思いの走りを堪能しました。

この日は積雪も無く朝から晴天に恵まれ、最初に受付を行った中井一樹さんファミリーが「元旦マラソンをスタートに、今年一年健康で過ごせるように体力づくりに努め、家族で完走することを誓います。」と選手宣誓を行いました。

家族連れやスポーツ少年団、仮装をして走る人たちなど、参加者は1.7km、2.4km、4.2kmのコースをそれぞれのペースで元気いっぱいに走りました。



元気いっぱいにスタートする参加者

つ 古川西小学校で講話 やばあちゃんの越えた野麦峠

12月19日（月） 古川西小学校

古川西小学校では、地元観光案内人の鮎飛定男さんを講師に招き、飛騨の女工についての講話を聞きました。

この講話は、明治時代の飛騨で働いていた女工の講話を聴くことで、地域の歴史や人々の苦労を学び取ることを目的として、同校6年生 47人が参加。鮎飛さんは、女工だった祖母のつやさんからの当時の様子などについて、当時の写真などを紹介しながら、「野麦峠へ行く機会があったら、ぜひ行ってほしい」と話しました。



生徒らに当時の説明をする鮎飛さん